



Title	外国語ブレンディッドラーニングにおける効果的な動機づけ方略に関する研究 [論文内容及び審査の要旨]
Author(s)	李, 在栄
Citation	北海道大学. 博士(国際広報メディア) 甲第11426号
Issue Date	2014-03-25
Doc URL	http://hdl.handle.net/2115/55406
Rights(URL)	http://creativecommons.org/licenses/by-nc-sa/2.1/jp/
Type	theses (doctoral - abstract and summary of review)
Additional Information	There are other files related to this item in HUSCAP. Check the above URL.
File Information	Zairong_Li_abstract.pdf (「論文内容の要旨」)



[Instructions for use](#)

学位論文内容の要旨

博士の専攻分野の名称：博士（国際広報メディア）

氏名：李 在栄

学位論文題名

外国語ブレンディッドラーニングに おける効果的な動機づけ方略に関する研究

（論文内容の要旨）

現在、外国語教育、および e-learning において、学習者の動機づけ低下が大きな問題として取り上げられている。本研究の目的は、外国語ブレンディッド授業の中で、学習者一人ひとりの動機づけを高めることを目指し、これまで得られた「動機づけ理論」の知見を基盤とし、現状調査、新しい動機づけ方略の設計、および授業現場での実施・検証など、一連の体系的な研究過程を通じて、学習者の個人差に対応できる有効な「動機づけ方略」を教育工学的に開発することである。

既存の先行研究とは異なり、本研究では動機づけとその要因の状態・変化を測定した上で、その変化をもたらしたのは具体的にどのような学習活動であるのかを授業形態・ツール別に調査する。また、これまでの個人差に注目した動機づけ方略に関する研究の多くは、全体的に動機づけ方略を実施して効果の検証段階のみ個人差を考慮していたのに対し、本研究では ICT の機能を活用し、方略の設計・実施・効果検証等、すべての段階において一貫して個人差を考慮した研究となっている。

伝統的な授業形態にとどまらず、ICT を導入・融合させた新しい学習環境・学習形態であるブレンディッド授業の中で、教育者が動機づけ方略を持ち合わせれば、動機づけを高める授業を考える上で貴重な情報源となる同時に、ICT を取り入れた教育方法の改善、および適切な授業設計にとっても重要な参考になり得る。さらに、ICT 活用における最大課題の解決に値することにより、最終的に「大学全入時代」における教育の質の確保・向上にもつながると思われる。

本論文の構成は以下の通り、7章構成でまとめられている。

まず第1章「序論」では、本研究の背景と目的、および研究の位置づけについて述べている。

第2章「研究の視点に係る先行研究」では、ICT を活用した学習形態、外国語学習における ICT の活用、外国語学習における動機づけ研究の位置づけ、これまでの外国語学習における動機づけ研究、および動機づけ理論など、本研究の視点に係る先行研究について概観している。

第3章「研究方法」では、主な研究方法の長所と短所を概観した上で、本研究で使われる調査票の作成、その妥当性について述べている。

第4章「現状調査」では、既存のブレンディッド授業の実施により、各心理欲求の充足状況、動機づけの向上状況、また学習者の評価に基づき、各学習活動が心理欲求の充足への役割などを全体傾向と個人差の観点から調査する。これらの調査を通じて、既存授業の不足点と改善の方向を探している。

第5章「動機づけ方略の開発」では、現状調査（第4章）の結果を踏まえて、これまで、関係性を含めた、心理欲求の充足を促す支援の手だて、CALL 自律学習の特徴、TA の可能な活動などを分析した上で、ICT の機能を活かして、TA の方から、学習者の学習履歴と成績に基づき、学習者一人ひとりに適切に対応するような介入型学習活動を設計している。なお、本研究での動機づけ方略は、このような新しく設計した介入型活動と既存の有効な学習活動を組み合わせたものである。

第6章「動機づけ方略の効果検証」では、5章で設計した動機づけ方略を1学期間実施し、心理欲求充足への効果、特に関係性の充足を改善できるのかを検証している。

最後に第7章「結び」においては、本研究のまとめ、教育への示唆、今後の課題を提示している。

(論文の構成)

謝 辞

図表一覧

第1章 序 論

- 1.1 研究の背景
- 1.2 研究の目的、位置づけおよび意義 3
- 1.3 本研究の位置づけ
- 1.4 用語の定義

第2章 研究の視点に係る先行研究

- 2.1 ICT を活用した学習形態
 - 2.1.1 e-learning
 - 2.1.2 ブレンディッドラーニング
- 2.2 外国語学習における ICT の活用
 - 2.2.1 CALL の変遷と主な実践タイプ
 - 2.2.2 CALL と外国語スキル
- 2.3 外国語学習における動機づけ研究の位置づけ
- 2.4 これまでの外国語学習における動機づけ研究
 - 2.4.1 動機づけの一般特質解明を扱った研究
 - 2.4.2 動機づけ方略を探る研究
- 2.5 外国語教育における動機づけ理論 37
 - 2.5.1 自己決定理論

2.5.2 「3つの心理的欲求」を満たす一般的手立て

第3章 研究方法

- 3.1 研究方法の選定
- 3.2 質問紙の作成および妥当性検証

第4章 現状調査

- 4.1 ブレンディッド授業の実施
- 4.2 予備調査の内容と方法
- 4.3 予備調査の結果Ⅰ—全体からの考察
 - 4.3.1 心理欲求と動機づけの変化
 - 4.3.2 心理欲求の充足に役立つ学習活動についての分析
- 4.4 予備調査の結果Ⅱ—個人差傾向からの考察
 - 4.4.1 学生の分類
 - 4.4.2 各学生群の心理欲求と動機づけの変容についての分析
 - 4.4.3 各学生群の心理欲求の充足に役立つ学習活動についての分析
- 4.5 予備調査の結果についてのまとめ

第5章 動機づけ方略の開発

- 5.1 心理欲求を満たす工夫
- 5.2 介入型学習活動の設計
- 5.3 動機づけ方略の構成と流れ

第6章 動機づけ方略の効果検証

- 6.1 検証の内容と方法
- 6.2 動機づけ方略の効果
 - 6.2.1 動機づけ方略実施前後における心理欲求と動機づけの変化
 - 6.2.2 各学生群の心理欲求と動機づけの変容についての分析
 - 6.2.3 実施群と非実施群における心理欲求と動機づけの変化量の差
 - 6.2.4 両年度における心理欲求と動機づけの変化量の比較
 - 6.2.5 心理欲求の充足における介入型学習活動に対する評価

第7章 結び

- 7.1. 本研究のまとめ
- 7.2. 教育現場への示唆

参考文献

付録

- 付録1：調査表
- 付録2：TAのe-mail介入時のメール凡例

以上